K's NEWS
KANSAI HOKURIKU BLOCK in AREA ×3

印刷して学生みなさんでお読みください！

全国大学生協連
関西北陸ブロック
執筆者：和田明日香
協力：京都大学生協
発行日：2023年1月14日
第193号

京都大学生協
「なつかし恋し給食の味」

［店舗］

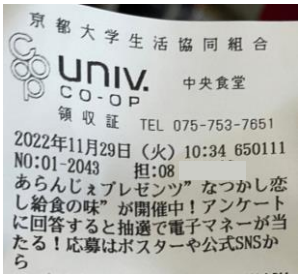
取り組み概要

日時：2022年11月28日（月）～12月2日（金）
　　2022年12月19日（月）～12月23日（金）
場所：京都大学生協 各食堂
参加者数や組合員の反応：全期間の提供総数おかず11982食、麺丼4881食、汁物12646食

背景や概要：京都大学には、全国各地から学生が集まっています。地元の味の懐かしさを感じてほしいという想いから、学生委員会オリジナルの給食メニューを提供しました。

「京都大学生協ならでは」の強みを企画に

POINT.1 「組合員視点」を軸に



京都大学生協では、企画実施において「組合員に貢献する」視点を大切にしています。今回の給食企画では、まず学生委員会内でメニューのアンケートを取り、その後学生委員会のTwitter経由で組合員にもアンケートを取りました。また、企画事後アンケートを作成し、レシートやSNSにて回答を呼びかけていました。

企画の事前事後に、組合員向けのアンケートを発信することで、組合員視点を軸にした企画となっていました。

POINT.2 店舗の多さを企画の強みに

京都大学生協は、吉田食堂をはじめ７つの食堂を有しています。当企画では、各食堂で違ったオリジナルメニューを提供してました。さらに、これらのメニューの組み合わせを変えて、同一食堂でも異なるメニューを楽しめるように工夫していました。

この企画をきっかけに、普段は利用しない食堂に足を運んだ組合員もいたそうです。各店舗において様々なメニューを提供することで、組合員が複数店舗を利用するきっかけとなっていました。

POINT.3 代替わりを意識した運営体制

今回の給食企画は、1、2年生が合同で進める最後の企画でした。「執行代だけでなく、１年生にもメニュー選定に慣れてもらいたい」という想いから、１年生の学生委員も企画づくりに携わりました。上回生がノウハウを教えながらも、情宣作りなどは基本的に１年生が担当しました。

執行代が全てを担わず、かといって1年生に任せきりにせず、縦の繋がりを構築したうえでの運営体制が取れていました。次年度を見据えた運営が、学生委員会一丸となって行われていました。

つながる元気、ときめきキャンパス。
univ. CO-OP
17 パートナーシップで目標を達成しよう
私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

ご質問や[K's NEWS]で紹介したい活動があれば、ご連絡ください！
ブロック学生事務局［ 和田 明日香 ］
Wada.Asuka@univ.coop